

損害写真の撮影方法について(ご案内)

このたびの被災に際しまして心からお見舞い申し上げます。

お手数ですが、請求書類として損害箇所等の写真撮影をお願いいたします。

写真撮影の際は、今回ご請求いただく内容の撮影イメージ(次頁以降)をご参照ください。

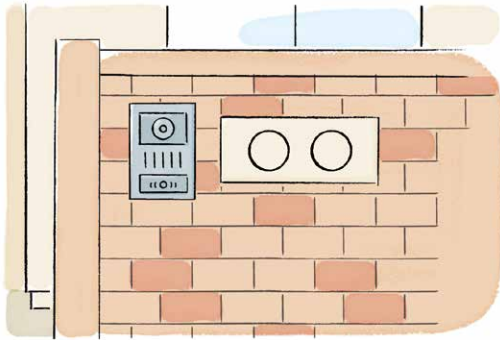
- 損害復旧見積書をご提出いただく場合は、御見積書の作成業者様等に撮影を依頼されることをお勧めいたします。なお、屋根の上など、危険を伴う箇所の撮影は必ず業者様にご依頼ください。
- 写真の現像代等の費用は、領収書(レシートでも可)をご同封いただければ実費をお支払いします。
- **離れた写真(損害範囲を確認するため)と近づいた写真(損害程度や内容を確認するため)の撮影を複数枚お願いします。**

写真台紙の使用例

撮影された写真は、同封の写真台紙への貼付にご協力をお願いいたします。
(貼付が難しい場合は、そのままご提出ください。)

(様式K-7-2) ご加入者番号 999-9999999-999 ご加入物件住所 XXX県XXX市XXXX町 99-99-99	ご請求者(被共済者)氏名 全国 太郎
写 真 のりまたはテープ等で貼ってください。	No. 1 【場所】 建物外観 (北側) 【説明】 屋根瓦一部落下 その他異常なし
写 真	No. 2 【場所】 【説明】

全項目共通で必要となる写真



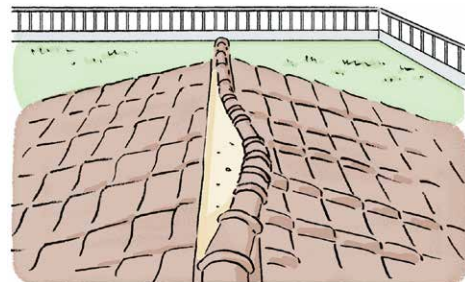
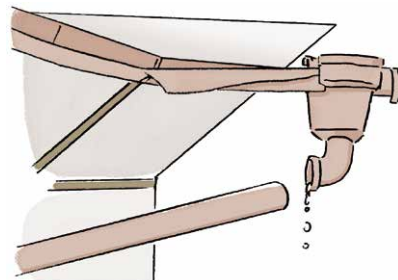
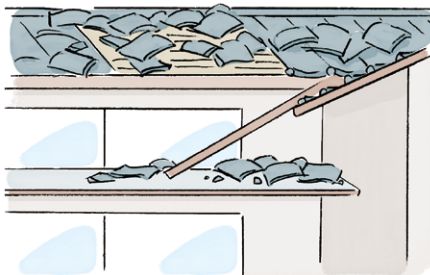
●表札と住宅の一部と一緒に写るよう撮影してください。



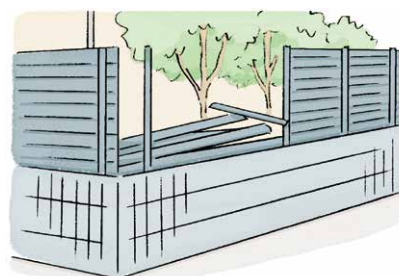
●建物の全景を撮影してください。

風害等の被害に遭われた場合

損害箇所や損害品の写真を、損害範囲・程度・内容が確認できるよう各箇所につき複数枚撮影してください。

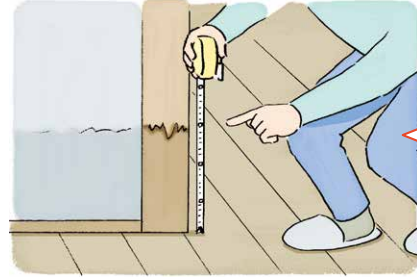
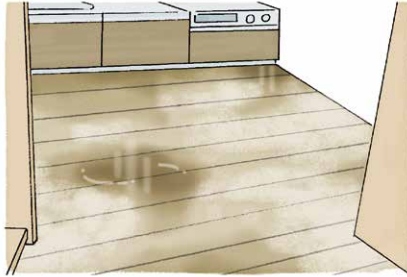


付属建物等に損害が発生している場合は、あわせて撮影してください。



床上浸水の被害に遭われた場合

浸水被害にあった室内(被害が顕著な箇所)と、床面(土間、たたきの類は除く)から**最も浸水した箇所**を複数枚撮影してください。



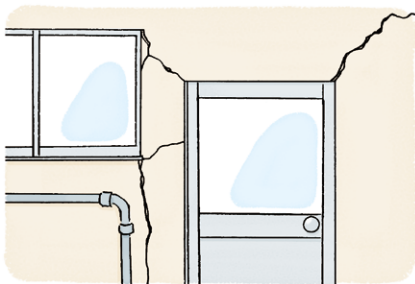
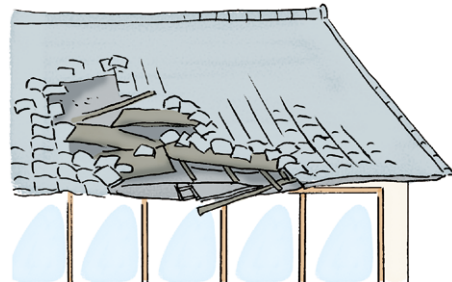
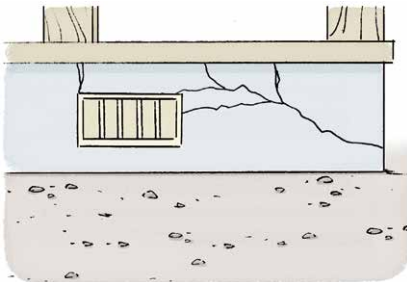
メジャーを当てて計測し、床面と浸水高がわかるように撮影してください。



付属建物等に損害が発生している場合は、「風害等」のイラストを参考にあわせて撮影してください。

地震の被害に遭われた場合

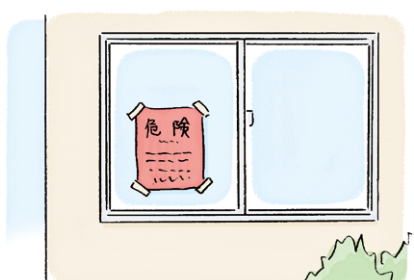
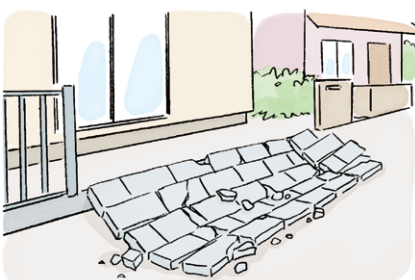
損害箇所の写真を、損害範囲・程度・内容が確認できるよう各箇所につき複数枚撮影してください。



付属建物等に損害が発生している場合は、あわせて撮影してください。

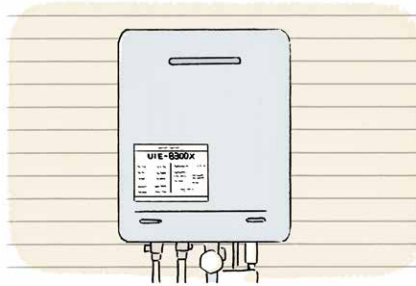


応急危険度判定がある場合は、その用紙と住宅部分が一緒に写るように撮影してください。



落雷の被害に遭われた場合

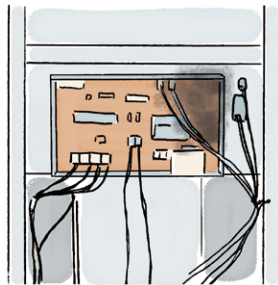
損害箇所や損害品の写真を、損害範囲・程度・内容が確認できるよう各箇所につき複数枚撮影してください。



- 損害品の外観(全体)を撮影してください。



- 損害品の型式・型番等が確認できる箇所を撮影してください。



- 損害品を修理または検査したときに損害品内部(損傷部位)を撮影してください。

「その他」の被害に遭われた場合

損害箇所や損害品の写真を、損害範囲・程度・内容が確認できるよう各箇所につき複数枚撮影してください。

「その他」の被害の例



火災
(消防破壊・
消防冠水含む)



水ぬれ
(給排水設備に生じた不測かつ突発的な
事故に伴う漏水、放水または溢水による水ぬれ)



直接加害行為
(突発的な第三者の
直接加害行為)

など